

乳がんの手術を受けられた非浸潤性乳管癌の方へ

防衛医科大学校 病態病理学講座では現在、下記の調査研究を実施しております。

研究テーマ：術前生検で非浸潤性乳管癌と診断された症例の手術検体での
病理学的所見と PET-CT 所見についての後ろ向き研究

乳がんの画像診断として PET-CT は広く使用されています。その他の検査としてマンモグラフィ (MMG) や超音波検査 (US)、X 線断層撮影 (CT) や磁気共鳴撮影 (MRI) などがあります。PET-CT は他の検査と同様に癌の検出能に優れているほか、FDG の集積 (SUV 値) の程度によって良悪性の診断も可能とされています。また乳癌の組織型によっても SUV 値が異なると言われています。非浸潤性乳管癌は充実型、低乳頭型、篩状型、面皸型などに亜分類されます。この亜分類は、癌の広がりや推測と浸潤癌へ移行していくかどうかの指標になるとされています。今回我々は術前組織生検で非浸潤性乳管癌の診断で FDG の集積により浸潤の有無や程度に違いがあるかを検討します。

本研究では、術前組織生検で非浸潤性乳管癌の症例で PET-CT での FDG 集積について浸潤の有無や程度について比較検討します。研究対象者は平成 22 年 1 月から平成 28 年 12 月までに当院で術前生検で非浸潤性乳管癌の診断がつき、術前 PET-CT 検査を受けられ、かつ原発性乳癌の手術を受けられた患者さんが対象となります。

この研究は、本校の倫理審査委員会で倫理性・科学性が検討され、承認されています。また、お名前、住所、電話番号、カルテ番号など、あなた個人を特定できるような情報はふせられたままデータを集計しますので、あなたのプライバシーは厳重に守られます。また、本研究において研究参加を拒否されても診療上不利益を被ることはありません。

何か不明な点がありましたら、またより詳しくお聞きになりたい方は、担当医までお問い合わせください。本研究への協力を賛同されない場合は、担当医に申し出ていただくか、下記連絡先まで FAX にてご連絡ください。その場合はあなたのデータを集計に用いることはいたしません。

平成 28 年 12 月

防衛医科大学校 病態病理学講座

山岸 陽二

TEL: 04-2995-1511

〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2